典稲葉正義書　典稲葉正義手帖

典守屋氏遺告遺命之書也　説歌　典跡部氏

七巻

六〇冊

ゆゑに

韞藏錄

六七

特別
ロ10
3475
4

D10
3475
4

龜藏録巻之六

與稲葉正義君十通

五月廿五日　戊戌歳

去ル七日ニ中秋ヲ迎ヒ候ヘ共別ニ変動ニ成候事無之候方ニ高ヲ下ヲ争ヒ候ヘ共
先日武井氏ヘ頼ミ候ヘ共ニ十分ニ成ル事ニ成ル事ニ成ル
儀ニ御座候ハヽ其方ヘ之ヲ去年中ニ成ル事ニ成ル儀ニ成ル
気ノ毒ニ存ジ候ヘ共仕方ナシ世上一同
一　大炊乃介様ハ西丸御使ニ成ラル
此度ハ御用ニ付ク
父母生存ニ付ク
二月ニ相ル
東金人
相ル年初ヲ
尺五寸
基本
一　徳川家ハ

[illegible]

一 病氣おもくなれば力なき人飲食を慎み[illegible]
[illegible]
由侍べきこと

一 [illegible]元[illegible]
[illegible]

一 七石玄厚[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 世[illegible]
[illegible]
[illegible]

出でやらんと思ふに死ぬべきおそれ[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九月四日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

集二年百姓ども人数五万人世ハせくと命ず兎角うしこく
ゐ孫八数ゐづし元禄くゆ元年百姓ども極貧

九月十七日　佐立州

絵千孫
猫

猫ハ安西紫子茅家ハ猫ハ小形ハ大猫ハ多メワケハ三ツ
ハ知レ申ハ三ツ程米ハ一ツ程なれハ猫ハ武三年
書て二人ハ多ク極ト申ハ申ハ元禄ハ猫ハ
ソモ申ハ猫ハ多くてハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ
ハト云ハ味ハんトれハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ
ハ一ハ一ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ
ツハ人ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ
王氏ハメワケハヨリ知レタ思不ハ生ハメ病気ニテ

人猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ
ニ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ
知ハ人ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ
ハ人ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ
ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ猫ハ

十月十一日書

久須元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ
ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ元ハ
丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ
ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ
ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ
ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ
ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ
ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ丹波ハ

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

丹三方ヨリ松宗二宅ニ九年ヨリ月ニ義
ヒ丹治ヨリ受ケ[illegible]紙ヲ見ルヲキヽトレサマシテ[illegible]ヲ上

三月十七日書

南方ヨリ出ル[illegible]ハ[illegible]ヲ[illegible]ハ[illegible]及財法ヲ[illegible]
ヲ表ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]

一 [illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
一 大[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
一 不[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
一 三[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
一 [illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]

一 四十六七ヨリ中国ヨリ論スルニ方事ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
一 事[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]

三月十七日

西義紙

佐芝判

当此病ハ気力乏ヲ通ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]

四月五日書　[illegible]

去ル[illegible]年[illegible]月[illegible]日[illegible]
[illegible]
以後初ノ動作後世動作ノ[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 此国民不佛[illegible]
一 [illegible]
一 武井浩道氏ハ[illegible]
一 七太[illegible]
[illegible]

一 三宅井浩氏ハ去ル年[illegible]
[illegible]
去ル[illegible]年[illegible]月[illegible]日[illegible]
村田[illegible]
[illegible]

一 其[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 去ル年上方ト[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 去ル[illegible]
[illegible]

[illegible]年七十二歳にて[illegible]法用に[illegible]届に[illegible]礼[illegible]止書道に[illegible]十三七八を
和止用字の伝を[illegible]ねんから来七十三[illegible]歳[illegible]
日[illegible]年[illegible]月[illegible]中が用[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

正月二十八日書

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

二月廿八日

[illegible]

二月十七日書

[illegible]

来月中旬より病気にて今日不体裁なれ共
[illegible]
世の[illegible]
一年の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一書[illegible]

[illegible]

佐藤[illegible]利

三月十[illegible]

[illegible]年十月[illegible]

四月十三日書

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 小移及し候ハ[illegible]

一 右通及申[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

十二月廿七日　　[illegible]

[illegible]

[illegible]

十八日

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

一世ゴロ二文字ノ外ハ理ヲ以テ[illegible]我牛理ヲ文字ト[illegible]理ヲ宗[illegible]ト[illegible]人ヲ[illegible]神[illegible]牛ヲ[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

二人ノ[illegible]新子唱[illegible]仰[illegible]

[illegible]

一大[illegible]

[illegible]

[illegible]

答守屋氏手帖

[illegible]

[illegible]

三月廿日　直方判

[illegible]

遺告　書置覚

一拙者死去に付跡式[illegible]

[illegible]

一仏事[illegible]

一同氏者八幡[illegible]

[illegible]

一素子先に縁有之[illegible]

[illegible]

一書[illegible]

右五千余[illegible]

享保元年十月

学問要少抄

上有二学文手程　仏教[illegible]　[illegible]

普西狩獲麟

うちくし[illegible]

[illegible]

仏教[illegible]

[illegible]

[illegible]

師生の法號を受て戒儀のすみ少れ五乙亥八月給日

汗一杯せて涼み給ふ老白方の御伝ひ思ひ出し又まうとの待ふし思ひて

ゆく末の老の世人おろくとしを老て御人岩れ白方

大樹をて之合のよめる

時の世ハ行るかなきを老をてふ人の恋のうき身のおき所

戊戌歳旦

歳とりふみ見しこの御もるしかをうとれ空ふ拾して

山をうとのりをとれとをうみぬ方をの者ををうりれ

世ゆうしと思ふ人のまをひて生れ道代をてぬをのあき

木芽をて清る

すゑハまさしを都と思ふれ世ををふ人のをを清を

心友のまれるを

形ハ世をの清き月を友ふ人ぬ人のまをり

心風なをる清清を清を清を家代幸人ふ拾ひをとを

さ清をを一清りを世ををを一清ををを清ををを清をを清をを清を

し〻傳ゆ[illegible]ト[illegible]ノ[illegible]ニ
[illegible]

韞藏録巻之七

三力、免

いとし〻の聖の御代の政をもすぐれ。民の慈恵の深きことも古へにも。
[illegible]
思ふ[illegible]なくみ遊れ。衣冠より車に乗るまで。万[illegible]
用ひよ。[illegible]
の松山の詩を書を[illegible]
[illegible]

○世の人の心まことハ[illegible]
なまじハかりのものなるハ。[illegible]
[illegible]
○おろ〻〻心なき世人と。[illegible]
那[illegible]
[illegible]
[illegible]

あるんぐ人こそ亦はさやハ思ふかじ行ゝ拾ひあつめてさるかゝさぞとも申
ゆゝしゝハゞつきゝゝゞぐさ由先と思ひど。げふハをこゝゝがゝ川方も。変を
いとゝゝかゝざらん人ハ。大ゝとゝ乃ちゝゝ。一事いとん祇て拾ひ行ゝ。ぶまあ
やらの人のなゝハ遠ゝふ座てゝゝる。ふの方ぬぐきぞわびゝゝさや

○公世の二信めせゝゝとふ。良覚僧正と世ゝ（しぎハて服ゝゝき人ゝ乃。
坊の傍ふ大ゝ乃板書られハ人板の傍正を拾ひ乃。ゝ名きゝゝ人ゝ
とて。彼まをきゝれ乃。其根の方をれハ切ゝ乃の傍正といひ乃。ふ
脇ゝて。切ゝ乃ゝ乃ゝ拾ゝ乃れハ。堀池の
傍ゝを拾ひ乃。

○長山反の出沢ふ。大井川の水を用ゝ世ゝれんとて。大乃めも民ふ行ゝて。
水車をつくゝせらきゝ乃。ふの乃ゝ式拾て拾ふいとふゝ出て呼
ゝ乃ふ。大ゝとゝゝゝゝゝ乃れハ。ゝゝく家ゝけれもつ乃ふはゝゝ。
いとゝゝふゝゝ乃。拾ふ治の男人を言て。拾（さゝれ人やゝふ
ゆひて由ゝゝ治ゝ乃ふれハ。男ゝ乃ふ人ゝ免ゝ乃て。水を乙ゝゝふゝ
たゝ乃ゝ。一方ふを遠式ゝ乃ものハ傍んゝとふきゝもの。

○人の流ゝ出ゝる高地後の。新北ゝ乃ゝきゝ拾ふれ。もとゝ其乃ゝ
ん人ハいゝとゝと思ひてハゝゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝ
ゝゝいとくゝゝゝ

○世ゝ流ゝゝゝ乃事。減ハあひゝゝきゝ。ふ皆ゝゝゝ。あゝふゝ
人ハ物といひゝふゝ。由ゝて三年月さゝゝひも座ゝて。ふれハいとき
ゝ流ゝゝて。ゝふゝも書ゝゝゝれて。やゝて言ゝぬ。乃ゝの物乃
上ゝふゝいとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。乃ゝの物乃
ゝゝいゝゝゝ。乃ゝ乃ゝ人ハふゝふ伝ゝゝゝ人の文乃ゝゝゝゝハ拾ゝ神の
伝ゝふゝゝ物ゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝハ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
人のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

て。いとど宮りぬべし。とゐもがくてもかうき世に。さてゐたらんは。
しるぬるすきまもなんなくてん。万しごとぶべかりけり。小さ屋の人の物語は。
平おごろく年の。こ方。紀人はあやしき。
○ほまつ。まぶる人はいかなるなんまれる。方ろく。さていと。
しなれば。よきまとぐいんのかの。屋ふうぞられてほどひやすく。人
まじりふれば。河ふそのふるまきごとして。さあがじんふうにて。人ふたをふき
物ふ。ふ。一度はうを。一度はふ。其ゆくまぞまれるるし。
ふ。ふ。三ごろりおこりて。物矢屋むけるる。まどひの上ふ。碎の中ふ
美をなれ。ゐ。ーまていそがもしーくれてまをれるる。人ゐるの
ゆ。
○ふ。紀のうをの。ふ。ふ。紀を。ひ。ひ。ゐ。ゆ。て。ゆ。う。ま。ほ。ふ。ける。れ。ゆ。
世ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふまで。ふ。ぬ。人。ふ。ふ。ふ。ふ

ざりのんかう。無益なれば好べからず。けだし一念よく定べしと思へとぶつもづうふ三の
矣師のおしへ。いろを[illegible]ふ[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]べし。[illegible]
[illegible]といへども。師[illegible]
[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]
[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]
[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん

物と爲せぬるなり。又物強き宝をふくまずしてもと。又はかなき
○言葉のあやなりとはけとうつせをおろかなる人ともいふべし。
いふ所。玉のきずのごとくにやむるをはずして。ゆすぐべきなり。
しかるをかまりの暇いくばくなくなるべし。人の身よやむるを
していとまなきは一ふかき病。中ニふかきは病。すこしきは病。人間の
たのしみとよろこぶ。飢ぜ寒うしぶ。風雨おそれぜして。きづくもを
をたのしみとす。病おそれぬ(忍ぶ)ばきれ(忍ぶ)
し。医薬をとるべうぜ。ゑをとくとて。求ばざるをもつ
しるすべしやうけざるをとりとす。はかのかを求めいるふむをおぢ
るをすべし。以れる後物ばかの人うたがうぜん
○かしこげなる人も人のうへをのぞきとりて。おのき(をぢきづる)。我をきう
ぜしておろかをきるいふをとりあるべうぜ。さればおのき(をぢ)をきるを物をきる
人をいふべし。かしこちえおくけきしるもきてを。物の思ふるるもきてを。物の
はきるる紀をもきてば。身の物をきうぜ。身の老ぬるをもきうぜ。
病のおろすをもきてば。おこのふたのいうさるをもきてを。身のうへ

此をきらはば。まーてかの物をきうぜ。但がうちはうでこうえん。身ハ
ふるくてしる。身の中きうぬにをかうはば。おべき方れなれば。きぬ
ふ似うをいをまー。かたち似ふたえ。ひをとうくせをきうふを
かうぜ。つくるをきうばやうくきりそうなる老ぬをきうばうんを用ふ身を
やすくせきう。刂おろうりときうばうをうんを絶を思ふこうされ。
きべて人ふを楽せーきばーて。衣ふまーどきうばうくちえまて
人をとるきふーて生つく。三智ふーて大戈ふまーじ。不惜の蔵をも
ちて信能の財ふてうり。雪のかーらふいーじきてさうるる人う
なるべ。いうんやあばうるをを中ずをぬるをとうき(ざうーざるを
ふまちん人ふ掘うハ人のあうふる紀ふかうば。むさぐるんふ
ふうまてうづうう身ふきづうーむうる
○心ふーとあるる物も。よ紀一言ハりいふ物。
しげるるば。がうふ人ふあひてはふハおきすやと問ひーふ。猶も物作ーずを
差ーうば。物ハ物の紀ハきり孫ハ。情ふきれんに孫物ーうふ
らんをいとをそう。子ふ人ふ言ふ身ハ心ひきがうれとに

こゝろ。さもなきぬ歟き事。恩愛のたるゝてハかゝる地の人よ
悪有るんや。善悪のゝゝ事のもゝ。ゝ物てゝ後親の志ハ兄ひ
るれ。世と捨てゝる人の方よするゝ。ゝ。ゝ。

○世の人のひとりあるべきことをすべてすべからず。必用なることを
ゆるす。多くは愛の深き人のせひ。自他のしるべあるべし。
深すくなし。是を深き時。たゞひめんよ愛のあるべきを云なり世にて
○年老たる人。一事ゆるされたるものなれども人のはなはだ
みるべきなり。老のくるしみにて。いかもいとうるさしと。さはあれど
きもをれるゆめをさまし。一生はかりてくらしてくるべく
人はとすきをおそれといひて有るべん。大方はたらくべき。そころよひ
ちくはさばうめをはなはだぬるやとすべをめづらなやまりを
有ぬべしさごろにもとゆまくたのもしてあるはれまてとふたの
あるじとを見ぬべし。まてたらぬる。たりとうべなるとなく
も。とゆぬべくをかぬ人めりいひ少をうをさもかくばと思ひるべく。
きてわらいとをびし
○貝をおいく人めあまくるをバおれてよ我をえをして人め神の
うげ。ひざのかまて見くべるまに。まくるをバ人おおれをもぬ。
よくおりくいよそまてとりるくとバくしてちゆゆだろう

おりくやうるおきどを多おりかい心基礎のをこをかたてえじくい。
むりひるるをまりてをでかたてをを。我はををよくくて。
こうるりひしまめををでおをでけば。をしるを石かるくはかるを。をのるる
るまもゆをてもをもむべくふを。岩でこてををたでしくを歯し。情献
ゆを調和好事ッ行して。おゆなゆるをなられをいり世代たもん
ををうくやゆくん。うちをつくしまぎかろくるくゆ犯まにしてをうる
るをは。歯ゆるるくゆをたをもくゆ時。をでめてはるるゆをしをむ。
ゆまあをり濃よをしてゆを祐立をくくるゆ。ををを。医昏
おいくるがごとくくゆ目のまくるくゆ人の愁をやる。をゆるゆどをしゆをを
くでくくせバ。其他ををくゆ流きんるるをををるる
○相模守時頼の母ハ松下禅尼と申せり。守をゆれやをるる
有るるゆ。をくけるるゆるりをゆくくしのやゆまをるりゆ。禅尼をづる
小刀をして切まハをしてをるゆ。せくくるの城を世義京。をゆの
ゆいめいをしてゆるるゆ。給ゆりて何ゆをゆの男ゆをくをををんゆ。をゆくくゆ
るるゆ人をるるゆ。をてゆををゆをゆをゆをゆ男尼がさいくるゆるを

ぬさり作らじとて。往一まつてをらまほしう侍。義家こゝろ侍張くんハ。
をるかすくやすくべしーのまづこゝろ工夫をとんちゝくやと。かさねて中
されりまし。ハ。ほしさをゝくゝ張くんと思くとも。ゆみだりハまづをゝく
て方へきゝ。物ハやぶれ。をゝるゝ弱だり侍。おりしてゝちもゝすぢ。
ゝをゝきくふ人ゝ弱らハせて。ゝつりんとゝやされり

○ゝつるものゝ弟子法師ゝゝ。学問して。世をゝをゝきとゝもせよとゝいゝ。ゝのまゝゝ法師ゝ
ゝをゝくんとゝふぶをゝゝ弱ゝゝ。ゝゝゝ。輿車もゝゝ身の。たゝ師ゝ
法せらまん時。ゝゝゝ。ゝゝゝ

五用有て。院れい参らせ給ふ。西山とは。其益増さるべきの儀
浮ゝゝなり。つゝゝ伺りて西山へ行歴きしごとくに紀ぬ。はや武
ぢ先いいて。日数さるはすみれを。西山のるはかゝりて。又旅思ひ
たてめと思ふ。一時の病急なり。是ぞ一生の病急なり。是ぞ一生の病急
歴し。一事を必なるべんと思ひて。他めるれ破ゝゆしいとむべゝゝ人の
物ゆも能歴かりよん。ゝるにくびしたハ一の大事なるべゝゝ
○今日さてるるべんるさんと思ひて行るぬ急先知年てきされてゝ海人た
るるすてきめらぬ人い事り拾るるこのるハそびひて必ひるぬ道
ぢるハるるぬるおゝ。ゝるるハゝるるくて安るべきるハいゝん
ぢゝ日ふるるるるまて思ひるるハ。一事のゆもるべゝ
一生の別も又恵るりかるるめ行るもるさひめると思ふ。ゝのる
ゝたるハめるるもたれをいよく。地ハ宝ゝとし不ゝとん思ぬ拾の藏さ
たるるび
○ゝるびのるハきのむべゝゝたるるるるゝ人ふゝ物たのむ思ハゝゝ
いるるるるいきるひ行るゝたのむべゝゝびこと紀ものまづわるふ紀

多しゝゝたのむべゝゝびこ紀のまれゝゝ多ひやすしゝゝ多行るゝたのむ
歴かゝゝびゝ拾るも叶ふあゝびゝ徒行るゝたのゝゝ歴田も不事ゝ紀天の
羅ともゝのむべゝゝゝ海とゝゝ紀るすゝ歴るるるゝゝるるるゝのゝ
ゝびゝるむきゝゝ拾るる人のるさゝゝるるゝゝるゝゝ歴ゝ紀
をもゝのむべゝゝゝ信あるるるゝゝ人をもきめまれざれハ先るる
叶ハゝるるびゝ非るるゝ紀ふゝゝゝるずゝれ太ひるゝればさゝゝれる歴遠
るまバふゝるゝゝゝゝゝ紀ひゝゝげくゝゝゝゝるゝゝゝ
きふゝゝてきびゝゝきゝゝきハ物ゝきゝひ行るゝゝひてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
るゝゝ紀ハ一もゝ拾ゝゝ人ゝゝ天紀の壹ゝ行るゝ人の性るゝ
ゝゝるゝんゝゝんゝゝハゝゝてきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ものゝなるるわゝゝハび
○ゝ行るるるハゝゝゝるる人心のまゝふ人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あるいは我が心を祈りくのうしきまくをいとものいふき
ものやうんんふめりけるまゝにぶむ手の間さそこばくのことハ入れるさまに
○ここ一ふ（ふ遠）昨よりたハうるハ楽のさあ心楽といふこのを楽す
すゝとをあるるやむ時ふ一楽欲する恋一ふ名心二種ありあ跡とを愛
るのいまき心二ふ（ふ）欲三ふ（ふ）ぢまひ心万の執ふこまをたを煩悩
相うおこりてをぶくのるづらひるかとんみたらず

兼好法師、老仏者流而所作徒世示早廼不正之旨世世人住
宗尚之處之淪亜之次長何其謬哉其間絶有足以為庸
俗之訓戒者今摘出為一冊一覧者思之負享乙丑之夏作藤直方書

仁老物記

新古今集ニ

ちゝはゝこふおもきうゝ（北小）仁老ものをるつまるゝ世はまふるを多を
仁ふをををふるふ女をるをいをつをおをををるるをまをてをのす
きたをめんを中ゝいふ（さをををををるるをををるべをを女の仁
に我つまをゝぬつまをかをぬ我をを掛ふて負女二夫仁歌をを故ふを

ゝを仁新むゝ一ふ（ふ）ふ（ふ）一ふ（ふ）那玉景といひ一女十二第ふて男ゝを
ふるれハ父母ふるれをて又ゝを男ゝ一ふををんをといひれハいを貞女の
道をゝ一ふんをて新古今歌ふを第ふを尋ふをがをを言ふゝ有ふゝ
其ふ部ふをゝ一ふ（ふ）ふ（ふ）ふ（ふ）

いつる山べしおんすてはおもしさしさしひきちよきのいきとはかのあ
まりくる雪のおんあいやくおやとれをけるとなてこと男よつをは
ずいとさへうてしとりかをとんつをんれるそそくてかしひあよ
きのいあとはいとり撫を貝女のんさしおハ無もうんしけりさ行て
人成とちてちよきさろへんんや

○坂川と院の寺さしみ金中網言後悪
人しおやひ寺殿の浦風て涙の移ろいを生行き乳
とひやり拾つる迄ろ女一宮紀伊
寺ときくなしれたまのあるとは波ふうや神のれもを移きれ
女のたよんさしるんに親なとやろうまかあひて孫とおかハとふふ
つをてひひ移ひ行るん若一親なく妻仕しけるん人なとを笠
多をとろさんといひとるの行ろも大ろとるんしとふとろ
くくしくるひき作りきしきさてを

○新参つとりも女房よ忍をを秋男かいくあなといひ作をれを
老高をちいてめをもあ風をあをみとりるの京の気きふ

とふこて作りスハ移とりは女房よ或男をかふとりはハあや
ゆりるあ長に後男乃をとふ老ゆをちはなくはうちとけ拾しと
いひ作りられハ

さてこに岩の水はるものを汲とけ程名て移ふかれ
かく清く移ふ行れとるん尚付のかるを老寿こちいて
ふひきやすく名をふるすもかそり尺千宮月の水ちやうち
をを水の咽ふとのやしふ移しかり作をきを十二人のかのん
さしやさしく社作れ女はかく清をもつ屋きを十二を移

○用信の内侍一条の院をて老のれ木れかふと老のひやふ
いふきてて大納云右家宮式枕中とて腕を宮の下より
宮中をを入りれは

玉の枕乃宮をかりるる家れかれふくなんあり移ふれ
やをよりれは近しふ
数り方て去の枕ひきを程を入りく後ををき

むかしの人はかうものたてをれども家はよこあるいは
こたへはなうふやうにかかるうちあるうちをみさをて
くしくうきなかーミ作る所泉水やさしくつくりまかーさ
ヨさうエ殿を当時の人かうハ家をは後まていふいふひく
れふーてあれくしく新たに作んさやーふはかあきまの花ろ
ちきりかとものかきまあーしはかあきまの花ろ
種とふりをつるふーて殿を
○ヨりきし女の親をかかーしくもかあきあわうすかとの
まん人ひらくえ立をとしさたくふ持へき幸あり親かをつるハ
ニ親のはうしていふ元くさ世ふ仕をくふ代おさあ
作へきをひとりつをうあり家ニさまふ女子ハさるおと
のさとまりたるもかく作へハこれかれ人くけさーし女かよハ
しかとしておのりうう女の心もうがくしくかをうあきうき
名かをいいそられて相代ニ世へとうあのやうふよるかさもか

くれたてよ屋きヨりさしりり源氏物語ニ作りーの人ハの姫ひ
ちりかーつきけうくれ我ハきそあうんなとふおかあり幸ひき
いそ〻父の大臣ふりーしむーのふりをもてらさけてむか
しくひとひるき世ふさそ世をヨきあんはハふなな
けそも矢を作りなをつをふ姫みりさあ元作りーまそと
しと光原式ふひりてふ北中宮ふうみまりそうれ
みーそ者とふきいそ作りしーふ紫式部の書をうしかく
つるも世の人のつうひのいふーめとえ元りるあ年中奥の姫
いとれいをふうーつをてみとふあそまりんかとおかりふ
新ふくありてをこがくおうふれつ人の出ふをうあさあて信る
をふりまかりて年並感
おちこちの人ものまれ形式宮ふ家在せんとハおかひさや君
と後をとありふるまあーもあれをは世ハたしうさる人
ふて浄瑠大徳と天のちとうあるとあて新めあり世をも
ふかくぬるれるれハかのを仕力ふ元をもをを作ーと

この女ハ殺ら法師ハ公卿よりてなかき世のはちに流せる人〳〵
作りいとけちき所くたつらし〳〵かきとさてハ作きて武蔵
ハ山寺ハこもりて作るときに有名なる女の志ハ〳〵つるとし
〳〵れハ空ハ法師
おなじ〳〵や本男ハかけちめを捨ることたひハおちぬ〳〵きる
ゆゝしきをちらまして人ハ山ひさえうきまの代ハも書つゝら
きんなりはおしきとき八後の世ハ人〳〵ハとて誓
女房ハとハ法師ハ人とつき作りきり尚てあれなる〳〵
○かゝと聖の少位の旅宿を者男ハ見ときとしろつ世ハ知て
ちらひゝれとすきてハるる好ハいひやりゝ
ワけらるゝ身を思ハ人ちらひて一人の命のおしとも知る風
女の男ハ忘らるゝハ〳〵くかゝ〳〵きことはて作る〳〵きはは
うらゝ〳〵て猫を人の命はおしむ〳〵ぬるきゝ世
なる風〳〵まゝ作るゝハ
いつまりと思いるかゝ北ゝとハ世ゝるまん

世ハこゝる男ハとの物ゝくも作ハ世ゝきハ〳〵ハ拾ても風〳〵ぬ知ハ
いとのゝ志ゝる女ハとの心まてよゝるゝ〳〵ちんハかゝくやゝ
ゝハハくかゝて男ハまかさゝ〳〵ゝ世ハ
世〳〵ゝ定めハ作りしやゝかき祈ちけんハとゝいて
ハ知りてうき花の種ハ〳〵
○祈ちゝらめ〳〵きことハ玉ハ大后もをハれ拾ハいゝんやを
志ゝ〳〵おゝて思や志ゝ〳〵ハ力く心ハかるハぬハうき世ゝ
ゝらひをと思ハ〳〵て作ゝ〳〵をもさのゝ志ゝ祈ゝらゝむき〳〵き
ゝ心ハ〳〵ハとハ武蔵ハ武蔵きと思ハ人ゝ男ハ拾て作ゝ
ハ人のまき〳〵ハいひきゝ世ハ〳〵ハ作ゝ中ハもいつ
ゝ方てさもハきゝのハ方ハ作ゝ〳〵ハ我ゝゝゝハ祈ゝきゝのもさゝ
ゝ〳〵ハ作ゝ〳〵ハとゝゝハ作ゝ〳〵ハ思ハ〳〵祈ゝをゝて
んゝもゝ〳〵ハ人ゝもゝゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

花のもとハうりおろす風流
人のさりといふものハこゝろ
き八若くていとまゝ行る所とゝ
歟一いまゝ小月日式言
○菩家五ツ石ハ
うゝ一や歟ゝ
いとうゝ一くおー
ゝ
あゝ一ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]ありて[illegible]男をとゝめ[illegible]
[illegible]

○夜[illegible]をゆかせてきりの男[illegible]
[illegible]日を[illegible]すゝ[illegible]
男[illegible]
きんぢを[illegible]

つねゝも露けりなる今宵[illegible]
おとこ[illegible]
多[illegible]
[illegible]

○下[illegible]
おきわるた[illegible]
女のもとに[illegible]
[illegible]
おこせて[illegible]

[illegible]
[illegible]
女をあひて[illegible]
きて[illegible]
[illegible]
[illegible]

もとの女と信をうしなうてしまうて男のやさんにたりやく一さんかと
ありけるとしんけいはいりこんはいりこんはいりこん

[illegible]

○をゝ[illegible]や[illegible]ふんたいめしゝ[illegible]けうとゝ世かうてむかし
のやうゝもかゝれおとうゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝとする人を[illegible]
家まつ[illegible]
[illegible]
[illegible]

てなかにもむらしの声ミだかくてさうやまひをつくさるすもの川
ちかやうにつゝまかりきるものの中にもいかなる中ハ一しほあはれ
おとろくのわざハむかしくにつたへきゝつたへ世にいとまれ
なるものなれ老国穴ものとらいかゝ姫世子
て給りたく寺うこの百ゑんもかつ〳〵ハ焼しかゝ
ゑ繁のまくしさ寺〳〵のたゝりとなりて社の石塔とも
むらこのまとうれしくまおんことをはとつらきなくまき
かくいふひとのさうさこれハ世の人ハむうとまる所く去北の
ゆめくさもいうそ〻叶ぬるんかの糸買ひ〻書のたるかゝし
半あ一ハ北ハ思ひ出きこと〻りむ〻一ハ亜光といひる女
もろこ一のあやうきとく寺んといひ一人の書ありしまよき
人の旅ありきと女のたを紙をとる女〻男のつやうを寺
ん霸漢といふよ世のうきめ一ふとをもひたまとも
もおもとこ一ハ弟刈ハ人ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻

ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻

[illegible]

○典侍亜子のよめる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たて京紙とこ花見えて葉へ作りめとも上あ其男の作をふのりてなん
多勿の振合とも作りくふ人世作りの人くふ千ふうとまりきぬし
くいてさ作り日きかりと見ひるーてひとくふんを改て手ふ作る新
多くまりやうふ作より作ハ三上ふ成いうあり共うとうしとあ
くふくあふいひるーーー

作りもの樣色々本宮の半仲丸さまとつくりかんさの八方を拾ひ
寄物法いろ〳〵作りたるやう新作ものゆきすなれて去年場う
拾五年七月の物語をいとかなしく〳〵ハ白拍子の名をとゝるものゆゑ
かくかなしく〳〵いみ〳〵き事たゝ世間ふつゝ〳〵のまゝ作るうしをき式
の凡生れ判官うあるとう毎の子をうらう張なりすして拾方行う
三郎五郎の〳〵て時の世の人〳〵ふきを行ひきうれやすけんをうそさを
作りあるこいとう武士の書とあり毎と敬ふむものハ人ふとゝ方
つまい祈ふ〳〵きとさてふ〳〵拾方作き ○伊豆北ゆきう三のみうとまた
作いろいろとき三かとやうく出作をおりわさを拾ふとするふう〳〵
き願の〳〵ふ物きつ者

日かゆれを行いゆ和まれ戸義経方さうんとの行かうふ〳〵き
三うとゆ強〳〵て主がとさてうを盃ふをせうよ
オひとり行ゆをうれたるて四きゆうて行うあきう事
作物百姓代又さうんとの方義うとゆ三ふかとおりわ拾ハ作詞も

とゝふ内書をまかて作りあ〳〵ハ三なゆ百義を方まゝきとおりとうう名
強をおゝ三て法うあり帝北ゆ方をいせ作るくさう作ゆをかるて
のうとうふ方つうて作いて久まゝき拾とあ拾ゆ〳〵された作物
のわれりうい二方ふたうの〳〵しとゆ和うみされの拾あうまれて世さ
〳〵きこ作りやあ〳〵て世さうけうの拾をこゝもんあるふしいく
て拾んさゝ〳〵行まれ〳〵作き〳〵ゆ方あ〳〵ゆ方ハ和拾ゆ
者法ふまゝうれ拾書作拾ゆ屋拾ふも入らき作りゆ

○泉式部のおとこのかれ〳〵ものうりうゆ
糸ゆうう業のとゝ拾ゆ

我ゆ〳〵ハ法の業ゆ方身うりかくゆ〳〵いつうむうと拾ん拾
とあうゆゆ業ハゆゆ一つの内ようゆのいうあうて行うて世〳〵う
奥山ふきうて為う影の影のむうるうあうものなゆ〳〵拾
の正利生ゆゆ男もつまゝ〳〵をあり作うとあん

○法の物語拾ゆ拾ゆ拾ゆ拾ゆ文字さあ〳〵作れ
おさ〳〵きさうものすくなう〳〵きゆ拾ゆ業あれ業業の原氏物語ハ

世の人はいかにもかの人のことを孝行者と定めらるまじき拙双我をおとるまじき不行りむ
なるものといふ和めをもかの孝行者のことを云いてこそ人のはたらきさま
中の親を孝行なる人こそ拙きまの孝行者なれ孝行者なるとは孝行者
行りなとすることを孝行者とは孝行者なるとは孝行者なるとは孝行者
なる道一天の道なりと孝行者なるとは孝行者なるとは孝行者なる
本とは海道なる孝行者なるとは孝行者なるとは孝行者なる
親なる人をもつ人のいさぎよしもうけて身のつきぬまいはつてこうて
ゆくきるがなとすまし孝行者なる孝行者なる孝行者なる
て我こそかい名はたかはせかはけて毎とかはけて孝の孝行者なる
親なるとはつるかはけて孝行者なる孝行者なる孝行者なる
孝行者なる人の親なるとはつるかはけて孝行者なる孝行者なる
人をやすらふ孝行者と思ふものは男をいやしさるもよく女のたを
たておとこをこうつかいさるなるたるとはつるとはつるとはつる
たく身の名をはたくしてたまきくりかへしてたまきたる

なるとはつるとはつるとはつるとはつるとはつるとはつる
たるとつかへしの名を世とはつるとはつるとはつる
親のたをしまたはつるとはつるとはつるとはつる
人のよくくたてはつるとはつるとはつるとはつる
はつるとはつるとはつるとはつるとはつるとはつる
帝とはつるとはつるとはつるとはつるとはつる

人の親のたをはつるとはつるとはつる
いとはつるとはつるとはつるとはつる
かをしのはつるとはつるとはつるとはつる
はつるとはつるとはつるとはつるとはつる
よくくはつるとはつるとはつるとはつる
おとこはつるとはつるとはつるとはつる
をはつるとはつるとはつるとはつるとはつる
まはつるとはつるとはつるとはつる

さしくやすきやうにかのやうにかき物をしたのんのうちもかるり
男と加ちんつまかたをあのおとをかしをも紙つとえんつさまきき物社
こをとと攻もせんとうつはねまきる私抵ハ行るまり紀之せめ汚
をうをきたのくらゝとしてあひをあとうをうをゝ也の紙ハ紙をふ家
行きと恪ハ行とけてかとまゝいらきかる紙ハかめえんつあかきうと
まゝとうさぱゝいとかるこをのるハ紙ハ紙ゝきあゝいふこと紙紙つ
考うて元るまりきゝ諫上男のさくめうちほと紙ゝきたのは
行ゝしかのうり年の紙ハのこうやすのかをうとこゝ光めゝ紙
をゝめうかまて紙せゝ人をかハをはうま聖の紙をうもかくなり由
くうゝひうつけても行なうるまゝきは男のんのうちかへゝ恋ゝ
紙愛をかこりて先服の子年城河ゝくきて紙とふうとまきゝ
光めゝも多く行るうりまゝ子をはあ行つゝ行るゝ元た
きうていとをゝこうかの諫姫ゝうるのつまのちるき
まゝ母の名をゝゝ思やゝれたゝ紙ゝきこを抵
○或女いとけなきまゝ子行りるうゝ子なかのいとふゝくゝて

をのゝく切りるかたをふふるゝ攻求まて有ををゝ女つきゝ子まハ
ゝゝせさりはまは学の切りるまゝ子の浅ゝ
学ゝ子をさはゝるをはゝしゝ小るゝやゝゝき母や立ゝき
と浅行りゝゝ子陸術の切母ゝ立ゝ抵りかくいとうきあ
ゝ者行るふをゝ思ゝ一有の宮主のふゝ立ゝうの麻ゝおゝて死
行る者ゝ子ゝ行ゝ者をゝ子諫姫ゝ者をたゝ
ゝるふ元年二人ゝまがゝゝゝゝ上者ゝて元ハ有ゝ
求ハいるゝや元ハ殺さん有ゝ抵ゝ抵ゝ行ゝ抵ゝ
ハきハいつゝゝゝゝかれわせむ有ふゝ抵ゝ行りつきゝゝ子立行ゝ抵ハ
をゝろさんやゝゝゝゝて思ひゝ子ゝ行ゝ子ゝ者ゝ立ゝ元行ゝゝ
ゝ伝ハ思ハ主ゝの元年の者の母ゝ子ハ母ゝ者ゝ行ゝ抵
紙知ゝ入れハ子ゝ元人を救せゝ子ゝ元ゝ抵ゝ子ゝ元ゝ人と
思ハ行ゝ抵ゝ行ゝ元ゝ行ゝ元ゝ行ゝ抵ゝ行ゝ抵ゝ行ゝ抵ゝ
のゝをゝろさむゝ思ゝ問ゝきハ母ふゝ行ゝ抵ゝ行ゝ抵ゝ
ゝ行ゝんゝ者ゝ者ゝ元ゝ子ハ人のゝをゝ

上の章の子を産さうさんと思へるを問へれば母答へて
いとやすいのおさるき八親しらるる事
なるまうしひそいまるめとさまし
やしるへとやすつまは方法をおきて
うさきを産をおろすしらんをたらく兄弟さうしていそ
ちきをいとしこしの産ををいておはやうの体を拵こと送云まそ
むき作るは死なたる人をとりさむくこ其き人の物事をさく作
ていいて毎年をそりたるん方こうめる子をいしまれたまと
ちるを思て作るしやをといひいまた皆人をとりきは宣王をを
年中上に生八王をの産の感しかひ兄弟の者ほのを子けのひ
を母を産母と名つけるとりかや

○まて子まて母上あるこをめをを見くしき中のたとへををもむし
うう上作るこをる兵女の身の上をを性をこ成為るるもの
為るしとうををたくおなるるもの思へをを種りむるより
知るある女のさるるうを産なを産をむきしめををまれるやし

晉の文公の妃翟姞と申せし人翟姞とは翟の姓にて三たりの
子をこうこを作りと翟姞喜りをもの事あるといふものの方に成
翟姞喜りてあかりつ我三たりの子を作りて行きくたらを
ちりれいまこの者をのあるこを成るをれかりく思ひて翟姞の
腹の中よりたまこの子屈叔といふものとすべて晉の成公を中
の方て公族大夫をおさんを成をもかをこりれはををう一つの
なる成をあてつのを公族をを屈
て人の産めを作るをりれは又我為をを
なりの方をを

一つ色を人をはいをを雑役をる神の人をの方波
をを法作をし姫をこを次の中ルの方人をこるををこを作れ
かの産夫人の産ををめをしてまりををををおきをかるを
さりををを三つを赤乳を産めをを
作るを姫のやく産をめををををを作をを法をを
オ産ををめををりを作をを世の中のむを人成を中を中を紙

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ひとさし汁をせさせて[illegible]ふ[illegible]言をは女牛の牛の子はかはいはそうして
[illegible]ものとなりてはやくなきものは[illegible]ふ[illegible]
学問あらまし[illegible]ばかりとおもうをき[illegible]母のかをいと[illegible]
やうなるをきゆるしたるとあとよく[illegible]
[illegible]ふかく[illegible]又を母のかをくふるの多うる所[illegible]むかし[illegible]
いひける大賢の母のをかをうのかしこきは[illegible]
是し[illegible]
[illegible]つくし[illegible]ばうの母をぬけて[illegible]
[illegible]て家の[illegible]
人のまねをせ[illegible]
[illegible]て学[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

世と絶昌のた祈となり[illegible]

古昔聖賢之治天下也男女各有其教矣後世教廃俗頽
唯知有男教而不知有教女之道是以世之婦女不識慎己従
人之義不順不信淫奔醜行無所不至嗚呼可哀哉
偶読俗間所行女訓范物語而見間有可為婦女訓戒
者採掇以為一冊為人父母者宜致思之自幼至乙丑之秋
佐藤直方書

小学十嘉言揚文公家訓曰童稚之学不止記誦養其良知
良能當以先人之言為主日記故事不拘今古必先以孝弟
忠信礼義廉恥等事如黄香扇枕陸績懷橘救敖隠徳子
路負米之類只如俗説使暁此道理久久成熟徳性自
然矣

伊東祐清

[illegible]

天のせいらんもゆるとてきらるまゝきよ[illegible]さすりうの九郎[illegible]
ヤ[illegible]は市 作いくさちまち平家へまいりたのもがしきとゝ
まいりせいきうの矢ぢからまつこしとさいさんヤ山きとも申かい
ゆくとゝのうときとゝ申ゝを軍勢うをてハいそう切いきを
行らまいきは力ちおもをたる京ゆよりりゝ小条
道の合戦の時加賀ゆ志の弟子にて祐清
名ゆ様式ふとゝむとさきをひいの時ゆ[illegible]うの矢の[illegible]
志かゝとてゆゝまねものをゆりりゝ

俗間所行曾我物語固不足着之書也然伊藤九郎祐清不肯
仕于頼朝而其所言天非尋常兵士之所及矣一日読之
感歎標出以示之 児童二
弥平兵衛宗清

平家物語五月雨の天狗云軍勢の[illegible]関東下向云軍勢
発ハ清をゝ[illegible]なつて中ゝ式ハ合くおろゝ上ゝ[illegible]
尾張ゆのゝ[illegible]せうゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ清大将[illegible]

ゑんとなりゝ[illegible]
[illegible]月[illegible]の源氏等ゝ[illegible]
より使者ゝ[illegible]
ゝ[illegible]
と云侍ゝ[illegible]
[illegible]
たゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

偶流年家物語年譜弁年兵衛宗清云歎曰無道之世
而尚有如此之人性善之不可誣也明矣学者宜深思之

安東入道聖秀

太平記ニ安東蓋入道聖秀ハ三千騎ヲ率シテ福島川ヲ渡シ合戦ス
ルニ百騎ノ勢ヲ討ナシ[illegible]ヲ[illegible]ル[illegible]ヲ[illegible]ル[illegible]ヲ[illegible]ル

世さまも上御ゝ[illegible]不思ハ[illegible]ゝきは人の人すくなくて一[illegible]加[illegible]ゝ[illegible]
の校ゝり書ハ少正卯ゝり況やけりゝ書ゝり国ゝ微ゝ[illegible]何とよりゝく
仁義と知人ゝゝ[illegible]なきとも[illegible]
事をは学ぶ[illegible]
[illegible]
[illegible]

けいこさるるや南北正平四年正月六日河内国金剛寺の合戦にて
討死しぬけだし生年六十六なり　むかしきうしの人にて正行ゆうこと墓碑伝記
にもこれあり　しかるに和漢人物考に新井白石のちかごろなれば
むかしくさぬ事なり　人名辞典　だいもんかい　ちがて
正平年間の合戦に師生年六十六くらい　考て正行は故　先祖の皇統武
尊神いしハ内侍を妻とすと　師生齢五十五まりてかく色ふまれていきて
しも同じ事なるべし　師生齢五十五まりてかく色ふまれていきて
かくの如き事をかく　なの世まれての所さうをあせるいとあさましうら
ちの武士の執事に任ずへて西嶺の陸をかつ者　そう氏おのおのは
きいたんかくかく　はるかに正行師生三人の切腹なりしを正行師生
のちうい　こう馬の命ずる武士　を　をうこまて　はこ　志こいまして　めこて
すこ　思ふ　しのたまへり　さうら
大正行の学問は　先生ちうき　記　先祖　授
を　授て正行　考感　かう　授　生　に　記され
ゆきは　其　家　は　親　等　理　明　基　ふ　て　朱子通鑑綱目の　を

ゆくかり　抑　後醍醐天皇　吉野　に
世の人　南朝　号
正位　北朝　皇　正統の　帝位　は　後村上天皇　半　後　北畠　五　後
正元　勅　破の　城を　責　られ　正儀　十津川の　を　流　正元
京　て　敗　れ　南朝　に　に　北朝の　後小松　和
睦　帝位　譲り　は　後　小松院　り　後を　小朝　正統の　天
皇　一　行　世　行　主　代　編　年　の　北朝　を　て　南朝　正統
の　ふ　ら　武　南朝　小松の　南朝　朱子通鑑綱目の　を
ふ　り　王　秋　義　の　罪　を　犯　り　小島　親房　北　正統　紀　南朝の　正統
生　を　編　り　い　生　ふ　ふ　南　房の　哀　微　憤　憤　り　を　利　家　ふ　ふ　む
の　微　を　り　生　の　ふ　ふ　推　之　ふ　世の　正統　た　せ　る　る　ふ　り　ま　は　を　八
ふ　一　月　恕　恕　の　私　編　と　ふ　べ　親　房　を　記　る　く　ふ　ふ　を　を　ま　一　が　も
経　程　の　ま　ま　う　と　き　人　る　ま　八　天　不　公　世　の　英　程　ふ　生　て　ま　ま　ま　し
学　の　の　一　ふ　ま　る　る　る　ま　一　き　ふ　市　ま　ま　記　程　ま　ま　ま　ま　ま
幸　ま　先　生　の　明　治　求　む　先　生　ま　か　り　ま　ま　を　程　ま　一　正　行　ま　年　武

考〻世〻ヲ以て去世の正流伝四世ヲ三日以内若云伝年一日以内若
昔付云双の忘録云わく世〻伝〻ヲ以ての伝ヲ号少家伝記一て
学記の校ヲ所の者伝ヲ人〻学記伝後て正流伝家ヲ流工威伝〻仕千星
のをときとりあえ示同色ヲ為ヲ人〻一世ヲ元禄壬午の年祐誠法眼
伝受野家ヲ授ク

右佐藤先生所嘗筆記也今集次之為一冊二冠小学嘉言
所載楊文公之言於書首以資幼学先入之益云享保丙
申仲冬日野田徳勝謹書

韞蔵録巻之七

京九丹